

平成25年度高大連携事業（出前授業）の総括

梅田良範、石原俊彦、篠崎健太郎、道廣敬治、大井浩、藤村悦生、新山亘、高田実
奥田佳史、玉越靖司、大山有利、阿曾沼亨哉、迫田竜太、古賀寛光、三浦隆

要訳

平成19年度より高大連携事業のひとつとして高等学校へのものづくり教育支援を目的に「出前授業」を実施している。平成25年度は機械・電気・電子情報・居住系分野における高大連携を実施しました。17校・27コース・704名

1. 概要・実績

| | 高等学校名 | 日時 | 実施内容 | 参加人員 |
|----|-----------|-------|-------------------|------|
| 1 | 兵庫工業高校 | 5/24 | 職業理解講座（機械エンジニア） | 30名 |
| 2 | 藤井寺工科高校 | 6/12 | 職業理解講座（機械製造分野） | 80名 |
| 3 | 藤井寺工科高校 | 6/12 | 職業理解講座（電気・電子分野） | 80名 |
| 4 | 西野田工科高校 | 6/17 | 職業理解講座（電気工事士） | 13名 |
| 5 | 西野田工科高校 | 6/18 | 職業理解講座（電気工事士） | 17名 |
| 6 | 岸和田市立産業高校 | 6/19 | ものづくりの精度（測定） | 10名 |
| 7 | 茨木工科高校 | 6/19 | 職業理解講座（機械・ロボット） | 54名 |
| 8 | 東住吉総合高校 | 6/25 | 職業理解講座（機械・ロボット） | 14名 |
| 9 | 福泉高校 | 7/9 | 3次元CAD体験 | 16名 |
| 10 | 福泉高校 | 7/9 | ロボット制御体験 | 17名 |
| 11 | 和泉総合高校 | 7/10 | ものづくりの精度（測定） | 39名 |
| 12 | 星翔高校 | 7/11 | パケットテストによる分析 | 31名 |
| 13 | 星翔高校 | 7/11 | わが家の耐震診断 | 25名 |
| 14 | 星翔高校 | 7/11 | Flashでアニメーションをつくる | 25名 |
| 15 | 星翔高校 | 7/11 | 組込みプログラミング入門 | 21名 |
| 16 | 生野工業高校 | 7/17 | 職業理解講座（電気工事） | 16名 |
| 17 | 伯太高校 | 7/24 | 体験 ロボットプログラミング | 4名 |
| 18 | 大阪商業大堺高校 | 10/3 | 職業理解講座（機械・製造分野） | 26名 |
| 19 | 桃谷高校 | 10/30 | 体験 ロボットプログラミング | 5名 |
| 20 | 星翔高校 | 7/11 | 水質浄化実験 | 38名 |
| 21 | 東住吉総合高校 | 11/27 | 職業理解講座（機械製造分野） | 25名 |

| | | | | |
|----|------------|-------|-----------------|--------|
| 22 | 貝塚南高校 | 11/28 | クリーンエネルギーでエコ体験 | 7名 |
| 23 | クラーク記念国際高校 | 12/19 | 職業理解講座（電子組込み） | 3名 |
| 24 | 日根野高校 | 12/20 | 東南海地震と大阪の建物被害 | 26名 |
| 25 | 岬高校 | 1/23 | 職業理解講座（機械・製造分野） | 36名 |
| 26 | 信太高校 | 1/23 | ものづくりの精度（測定） | 4名 |
| 27 | 岬高校 | 1/30 | ものづくりの精度（測定） | 42名 |
| | | | | 合計704名 |



3次元CAD体験



組込みプログラミング入門

2. アンケート結果より

受講した学生からは、「初めてでおもしろかった」「楽しかった」「ものづくりに興味が湧いてきた」「今後の進路に参考になった」等の感想があり高大連携の目的が達成されているが、

3. 総括

| 年度 | 実施校数 | 受講人数計 |
|--------|------|--------|
| 平成20年度 | 10校 | 325名 |
| 平成21年度 | 19校 | 305名 |
| 平成22年度 | 15校 | 470名 |
| 平成23年度 | 16校 | 582名 |
| 平成24年度 | 16校 | 325名 |
| 平成25年度 | 17校 | 704名 |
| 計 | 83校 | 2,711名 |

施設内では受験生確保に向けた取り組みに結びついていない。通常業務が忙しく準備に時間をとられるために対応が難しい等の意見が出されている現状もあります。

また、最近では若年者の理工系離れ、製造業離れが顕著に表れています。高大連携や職業ガイダンスは、即結果に結びつけることは難しい状況ですが、少しでも多くの受験者を確保するために高等学校（進路指導）と調整を図りながら継続的に業務を展開する必要があります。